

脊髄造影検査（ミエログラフィー）

I. 脊髄造影検査とは

様々な原因(ヘルニア、腫瘍、関節の変形など)により、脊柱管内の神経組織を圧迫している位置や程度を評価する検査です。脊椎脊髄病疾患の病態把握や今後の治療方針、術式を決定するために必要な検査です。また、ペースメーカーを装着していて、MRI 検査が禁忌な方にも行えます。

II. 検査を受ける前に

当院では、2泊3日の検査入院で行っております。検査前は食事を控えていただき、検査後の食事となります。検査に支障がない衣服(金属の下着やズボンのファスナー等がない衣服)に着替えていただき、出棟前に点滴を始めます。

この検査ではヨード造影剤の使用が必要です。喘息を有する方や、以前にヨード造影剤で重篤な副作用があった場合は、必ず検査前に主治医に申し出てください。

III. 検査の実際

1. X線透視装置の上で、横を向いて寝ていただきます。
2. 背中を出していただき、ある程度の範囲を消毒します。
3. 清潔なシートで覆い、細い針を用いて腰椎より神経組織を包む硬膜の中にヨード造影剤を注入します。
4. その後、様々な姿勢で脊椎の変化による神経組織の圧迫状態を撮影し、評価をします。
5. 脊髄造影検査の終了後に、CT室へ移動していただき、脊髄造影後CT検査を行います。

IV.検査後の注意

- i. 検査後は飲食やトイレ歩行は可能ですが、移動時は、安全のために車椅子を使用したり、歩行の介助をさせていただくことがあります。
- ii. この検査ではヨード造影剤の使用が必要です。ヨード造影剤は基本的には安全な薬剤ですが、かゆみ、発疹、発赤、悪心、嘔気、息苦しさ検査直後から数日で発生することがあります。その際には、主治医にお申し出ください。
- iii. 検査後の合併症として、上記の薬剤アレルギーに加え、頭痛、神経症状の悪化、感染症（髄膜炎）などが報告されています。

